

## 古代官衙・集落研究会研究集会 の開催

2016年12月9・10日の2日間にわたって、平城宮跡資料館講堂にて古代官衙・集落研究会の研究集会をおこないました。1997年より始まった同研究会も、今回は記念すべき第20回という節目を迎えることとなり、「郡庁域の空間構成」という総合的なテーマを設定しました。

これまで、郡庁に関しては、コの字型や品字型等、複数の建物配置の類型化がなされており、古代官衙・集落研究会においても、2009年に門、2011年に四面廂建物、2013年に長舎と継続的に地方官衙の諸建物の検討をおこなってきました。こうした経緯から、郡庁を個別の建物や建物配置だけではなく、総合的に捉えてみようというモチベーションで企画しました。

当日は松村所長の挨拶の後、考古学の5名の方々から各地域における郡庁の発掘状況・空間構成の報告と、建築史学・文献史学の各分野からそれぞれ、周辺環境をからめた郡庁域の空間構成や郡庁の建物の特徴について報告がありました。2日目の午後には、坂井秀弥教授(奈良大学)を司会に迎えて、討論をおこないました。郡庁の空間構成の特徴を構成する、周囲から区画された広場と、中心的な建物という二つの要素について、その意義や利用法、儀礼との関わり、時期的な変遷等、多岐にわたる有意義な議論が交わされました。そして、報告・討議を経て、郡庁には周辺の国庁・古墳・集落等、地域社会の背景との関連性を考えていく必要があるという新たな課題も見えてきました。

2日間で、計138名の方々にご参加いただき、会場を含めた熱気ある議論が交わされ、研究集会は盛会となりました。(都城発掘調査部 海野 聡)



多数の来場者に湧く講堂